

令和6年度夜間銃猟安全管理講習会 開催・募集要項

平成27年5月に鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律の一部を改正する法律（平成26年法律第46号）が施行され、認定鳥獣捕獲等事業者制度が導入されました。

環境省では、夜間銃猟に係る認定を受ける意向のある、認定鳥獣捕獲等事業者の事業管理責任者及び夜間銃猟をする捕獲従事者を対象として、修了が義務付けられている「夜間銃猟安全管理講習会」を開催しますのでお知らせいたします。併せて、「夜間銃猟をする際の安全確保に関する技能の要件」のうち、射撃技能の確認を行います。

なお、夜間銃猟は、都道府県が指定管理鳥獣捕獲等事業を効果的に行うために必要と判断し、指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画に位置づけた場合であって、都道府県又は国の機関が指定管理鳥獣捕獲等事業として実施する場合に限り、厳格な安全管理のもと、限定的に実施が認められるものです。夜間銃猟の実施を予定している都道府県は、現時点では少数です。そのため、夜間銃猟に係る認定を受けても、夜間銃猟を含む指定管理鳥獣捕獲等事業を受託できるとは限らないことにご留意ください。

■開催日程・場所

本講習会は、講義をオンラインで1回、実習および射撃技能の確認を、3会場ある射撃場から1会場選択し、2日で（関東会場は1日）実施します。

詳細は下記のとおりです。

① オンライン講義

開催日	開催場所
令和6年10月10日	オンライン ・web会議システム（Webex）を使用します。

② 実習および射撃技能の確認（いずれか1会場を選択）

	射撃場	内容	開催日
北海道会場	帯広総合射撃場 北海道帯広市東1条南8丁目20番地	実習	令和6年10月19日
		射撃技能の確認	令和6年10月20日
関東会場	群馬県安中総合射撃場 群馬県安中市宿2003番地	実習 射撃技能の確認	令和6年11月22日
関西会場	京北総合射撃場 京都府京都市右京区京北下町山作り 1-2	実習	令和6年11月27日
		射撃技能の確認	令和6年11月28日

■講習内容（予定）

① オンライン講義

時間割	内容
13:00 ～ 13:30	受付
13:30 ～ 13:40	開会
13:40 ～ 16:00	夜間銃猟安全管理講習（講義） ・ 制度の概要 ・ 夜間銃猟の実施における安全確保

② 実習および射撃技能の確認

【北海道会場】

実習：10月19日

時間割	内容
14:20 ～ 14:40	受付
14:40 ～ 14:50	開会
14:50 ～ 19:20	夜間銃猟安全管理講習（実習） ・ 銃器の安全な取扱の確認（別紙1） ・ 薄暮時における銃器の安全な取扱の確認 ・ 模擬的な夜間銃猟の実習
19:20 ～ 20:00	習熟度確認テスト 諸連絡

射撃技能の確認：10月20日

時間割	内容
10:00 ～ 10:30	受付・諸連絡
10:30 ～ 12:10	射撃技能の確認
12:10 ～ 12:20	閉会

【関東会場】

実習及び射撃技能の確認：11月22日

時間割	内容
8:45 ～ 9:00	受付
9:00 ～ 9:10	開会
9:10 ～ 11:40	夜間銃猟安全管理講習（実習） ・銃器の安全な取扱の確認（別紙1） ・薄暮時における銃器の安全な取扱の確認
11:40 ～ 12:40	昼休憩
12:40 ～ 14:00	・模擬的な夜間銃猟の実習
14:00 ～ 15:00	習熟度確認テスト 諸連絡
15:00 ～ 16:40	射撃技能の確認
16:40 ～ 16:50	閉会

【関西会場】

実習：11月27日

時間割	内容
14:20 ～ 14:40	受付
14:40 ～ 14:50	開会
14:50 ～ 19:20	夜間銃猟安全管理講習（実習） ・銃器の安全な取扱の確認（別紙1） ・薄暮時における銃器の安全な取扱の確認 ・模擬的な夜間銃猟の実習
19:20 ～ 20:00	習熟度確認テスト 諸連絡

射撃技能の確認：11月28日

時間割	内容
10:00 ～ 10:30	受付・諸連絡
10:30 ～ 12:10	射撃技能の確認
12:10 ～ 12:20	閉会

■定員

本講習会の定員は、実習会場ごとに12名、合計36名です。

■参加費用

参加費は無料ですが、使用される実包等は各自ご用意ください。

■講義（オンライン開催）受講に関する注意

講義はweb会議システム（Webex）を使用したオンライン形式で実施します。

受講するためには、下記の設備が必要ですので、ご準備をお願いいたします。

- インターネットに接続して、画像と音声を再生できる端末（PC・タブレット）。
- 出席確認のため、webカメラ及びマイク。

※講義中、離席するなどして受講をしていることが確認できない場合には、修了書は発行できません。

※スマートフォンでの受講はできません。

※通信状況が良好な環境での受講をお願いします。受講者都合の通信不良で受講できなかった場合、修了証は発行できません。

■受講者の要件

受講者は原則として、認定鳥獣捕獲等事業者の事業管理責任者、又は夜間銃猟をする捕獲従事者に限ります。

参加要件は以下のとおりです。

- 認定鳥獣捕獲等事業者に所属していること。
- 第1種銃猟免許を有していること。
- 全てのカリキュラム（講義及び実習・射撃技能の確認）に参加すること。

■申し込み方法

「射撃技能の確認実施要領」をご確認のうえ、別紙「令和6年度夜間銃猟安全管理講習会参加申込書」に必要事項をご記入いただき、下記の書類を添付のうえ、電子メールで講習会事務局にお送りください。

●添付書類

- ✓ 安全管理及び技能知識講習修了証（写し）
- ✓ 猟銃・空気銃所持許可証（写し）

※顔写真のあるページと射撃技能の確認で使用する銃器のページの写しを添付してください。

【申し込み期限】

令和6年9月30日（月）まで

【申し込み先】

夜間銃猟安全管理講習会事務局（担当：湯瀬）

E-mail:yakanjuryo2024@jwrc.or.jp

【講習会事務局連絡先】

一般財団法人自然環境研究センター

E-mail:yakanjuryo2024@jwrc.or.jp

TEL:080-2342-5454（平日10時から17時まで）

なお、申し込みを受け付けた時点で、事務局から法人担当者へ連絡します。連絡がない場合、何らかの理由で参加申込書が事務局に届いていない可能性がありますので、事務局にお問い合わせください。

■注意事項

- 認定鳥獣捕獲等事業者（法人）ごとにお申し込みください。個人からの申し込みは受け付けできません。
- 1法人あたりの受講者は、原則として事業管理責任者1名（捕獲従事者を兼ねることは可）、捕獲従事者2名、合計3名です。
- 前年度までに事業管理責任者が受講済みの場合、捕獲従事者のみの受講は可能です。
- 定員を超過した場合、受講者を選定させていただきます。
- 講習会当日、射撃練習をすることはできません。
- 不明な点は事務局までお問い合わせください。射撃場に直接問い合わせることはご遠慮ください。

■受講の可否

受講の可否については、事務局から電子メール等でご連絡し、参加案内をお送りします。

■射撃技能の確認

射撃技能の確認時に実施可能な射撃姿勢は立射・膝射・伏射・肘射のいずれかです。

具体的な確認方法は「別紙2 射撃技能の確認実施要領」をご参照ください。

銃器の安全な取り扱いの確認 実施要領

夜間銃猟安全管理実習のうち、銃器の安全な取り扱いに関する実施要領は、次のとおりとします。

公安委員会の指定を受けた射撃指導員の指示のもとで、以下の操作を行っていただきます。射撃指導員は、講習記録基準(テキストに記載)にしたがって、受講者の銃器の取り扱いを確認します。操作に際して危険な行為等があった場合には、その内容を記録して受講者に改善を促すようにします。

夜間銃猟においては、安全性が最優先ですので、不適切な取り扱いがあった場合は、改めることが求められます。

(1) 使用する銃の点検及び分解結合(1回)

ア) ボルト式の銃は、ボルトの脱着を行っていただきます。その他の銃は通常の分解結合を行っていただきます。

イ) 使用する銃の安全点検を行っていただきます。点検では、受講者は「……異常なし」等声を出して行っていただきます。

(2) 使用する銃の保持及び携行(1回)

使用する銃を携行していただき、射台と銃架の間を移動していただきます。

(3) 模擬弾の装填及び脱包(2回)

模擬弾の装填及び脱包を行っていただきます。模擬弾は、講習においては、実包とみなします。

(4) 照準及び空撃ち(5回)

射撃姿勢をとり、空撃ちを行っていただきます。

(5) 不発の場合の処理(1回)

模擬弾を不発弾と仮想することにより、不発の場合の処理を行っていただきます。

※ 模擬弾は各自でご用意ください。特殊な口径等で模擬弾が準備できない場合は、必ずしも必要とはしませんので、当日受付でお申し出ください。

射撃技能の確認 実施要領

夜間銃猟安全管理講習の受講者のうち、捕獲従事者を対象に、射撃技能を以下の方法により確認します。

(1) 使用する銃種及び実包

射撃技能の確認において使用する銃種（ライフル銃、ライフル銃及び散弾銃以外の猟銃、散弾銃）は問いません。ただし、使用する銃については所持許可証の用途欄に狩猟または有害鳥獣駆除の記載があるものに限り、使用する実包については、射撃場で使用できるものであれば制限はありません。

(2) 標的の大きさ（次頁参照）

中心点を「+」または「×」で示し、中心点から半径 2.5 cm（ライフル銃）、半径 5.0 cm（ライフル銃及び散弾銃以外の猟銃、散弾銃）の範囲を記した標的紙を使用して実施します。

(3) 射撃の方法等

ア) 射撃場において、50mの距離から静的射撃を行います。

イ) 射撃回数は、受講者1人につき、5回以上の射撃とします。

ウ) 本射とは別に10回以内の試射を認めます。試射は、照準調整のためのものであるため、本射とは別の標的紙を使用し、本射の対象とはしません。

試射は、本射の前のみ行うことができます。

エ) 時間は1人につき、試射を含めて10分以内とします。

オ) 実包の装填数：1回の射撃につき、実包は1個のみ装填するものとします。

カ) 受講者は立射、膝射、伏射及び肘射いずれかの射撃姿勢により射撃を実施することとします。

キ) 各姿勢とも依託射撃を行う場合、架台、土のう等を使用することは可能です。銃を完全に固定する方法（例：ベンチレスト等で銃全体を完全に固定する方法）での依託射撃は認めません。銃を安定させるために腕に絡めて使用する負い革については、その使用を認めることとします。

※ 必要な器具については各自ご持参ください。なお、この基準に適合するか不明な場合には、参加票が交付された後に、器具の写真等を添付して講習会事務局連絡先まで電子メール（yakanjuryo2024@jwrc.or.jp）で、お問い合わせください。

